

◆2013年度の講座の概要(抜粋)

※2014年度の講座は、2013年度を下敷きにして、さらに充実をはかる予定です。(講師の顔ぶれと講座の内容が2013年度から変更になることがあります。ご留意下さい)

◎横内謙介の講座

- ・最初の授業で、講座の年間予定と全体方針を説明
 - 講師(主に劇作家)が、各自の創作方法などをそれぞれのスタイルで語ったり実習を行う
 - 講義だけではなく、ストレートプレイのプロット作成と創作の連続実習も行う
 - 戯曲を書ける人は書いてかまわない。原則として希望する劇作家に講評してもらうことが可能
 - 受講生どうしで勉強会、リーディングを始めてみるなど、それぞれの個性を生かしてコミュニケーションの回路をつないでほしい
- ・日本の演劇の変遷と現在の状況について
- ・登場人物がストーリーに奉仕しないことについて
- ・演劇スタイルの違いについて
 - 同じ戯曲を演出を変えてやってみる
 - 演者の立ち位置による比較、言葉がどのように違うか
 - 自分の興味とテーマがどこにあるかを考える
- など

◎平田オリザの講座

- ・グループに分かれて短編戯曲を創作する実習
 - 演劇を創るとはどういうことか
 - 演劇と映画の違い
 - 場所(空間)、背景(時間)、問題について
 - セミパブリックな空間について
 - グループごとに題材を決める
 - 登場人物の機能と出ハケについて
 - グループごとにプロットを作成する
 - できあがってきたプロットに対する講評
 - プロットにOKが出たらエピソードを考えてセリフを書いていく
 - エピソードの使い方について
 - セリフの「冗長率」について
 - 各グループが創作した短編戯曲をリーディングで発表、そして、講評
 - リーディングで戯曲の弱点がよくわかる
 - 登場人物の機能について再確認
 - 登場人物の気持ちが変わる要因について
 - 最後に
 - ルポでも小説でもなく、なぜ「演劇」なのかを考える
- など

◎長谷基弘の講座

- ・プロット実習講座
- ・演劇の構造と会話
 - 会話を書くことを疑似体験するエクササイズ
- ・プロット作成のエクササイズと講評
- ・グループに分かれてプロット創作をする実習
- ・テーマの掘り下げ方について
- ・伏線について
- ・ドラマリーディングの理論について
- ・ドラマリーディングのコツ
- ・ドラマリーディングを体験するグループワークなど

◎鈴木聡の講座

- ・僕の書き方
 - 演劇になりにくい題材
 - 役者の腑に落ちるセリフ
 - ケンカのおもしろさ
 - アイディアのストック
 - 自作『おじクロ』は、どのようにして書いたか
 - ももクロをどう解釈するか
- ・書きたいものを、おそれずに書くためになど

◎公開講座(2日間)

○長谷基弘のワークショップ

- ・「ことばから、ことばと身体を生み出す」
 - ことばを基点として、ひとつの場面をグループで創作するワークショップ
 - 身体からの発想で劇を作る
 - 劇作は個人作業だが稽古は集団作業であることを体験する
- など

○中屋敷法仁のワークショップ

- ・座・高円寺の舞台を使って「舞台を体験するワークショップ」
 - 戯曲は、劇場という空間で演劇になる
 - 劇作家、演出家、俳優、観客の関係
- など

○劇作家協会新人戯曲賞ドラマリーディング

- ドラマリーディング上演
 - ・2001年度佳作『沙羅、すべり』(芳崎洋子)
 - ・2012年度受賞作『見上げる魚と目が合うか?』(原田ゆう)

○トークイベント「劇作家が戯曲を審査する」

- 出席: 鴻上尚史、坂手洋二、マキノノゾミ
- 司会: 樋口ミユ

◎中津留章仁の講座

- ・自作『極東の地、西の果て』を語る(事前に観劇会を実施)
 - 人とは違うことがやりたい
 - 最初の衝動は自分の生活の近くにある
 - 生活のために芸術をやめていく現実、農業自給率の問題
 - 着想の種をストックしていく
- ・何のために劇作家を目指すのか
 - 震災を扱った『背水の孤島』について
 - ボランティアに行って気がついたこと
- ・セリフの優劣について
- ・私の創作法
 - 逆を考える
 - 状況の観察
- など

◎鴻上尚史の講座

- ・戯曲を書くのに大事なこと
 - 「表現」と「表出」
 - 最後まで書き上げる
 - 目的と障害
 - 行動を書く
 - 多重層理論
- ・僕の書き方
 - 過去が未来に進んでいく
 - 結末から書くことも
 - 登場人物が勝手に動き始める瞬間
 - 劇作はパズル
- など

◎扇田昭彦の講座

- ・1960年代～2011年、日本の戯曲はどう変化したか
 - 1960年代～70年代の小劇場運動が戯曲に与えた変化
 - 1960年代～2000年代、劇作の分野で起きたいくつかの変化
 - 1990年代以降の変化
- ・世界の演劇の潮流
- ・3. 11以降の変化について
- ・韓国のミュージカルについて
- など

◎故林広志の講座

- ・「笑い」の創作について
 - 「笑い」の緩和作用
 - 「笑い」を生む状況
- ・コントの手法
 - 掛け合わせ
 - 緊張の緩和と対比
 - 人物設定
- ・コントとコメディについて
- ・コントの課題を出し、提出作品を講評するなど

◎土田英生の講座

- ・「表現する」とはどういうことか
- ・セリフをどう書くか？
 - 短くて、かつ、状況を的確に観客に伝えるセリフを書く実習
- など

◎マキノハミの講座

- ・私の創作方法と戯曲執筆のコツ
 - 自作『横濱短編ホテル』をテキストに
 - 映像シナリオと戯曲の違い
 - 「上手い」とはどういうことか
 - 「落差」を考える
 - 「秘密」について
- 戯曲を書くうえでの基本的な態度について
 - 戯曲は俳優やスタッフによって何度も繰り返し読まれるもの
 - 自分のやりたい事だけではダメ
- など

◎永井愛の講座

- ・「劇を書く」ということはどういうことか？
- ・何のために劇作をするのか？
- ・劇の世界観について
 - 劇作家の視点
 - 日常の再構築
 - 共通認識というものを過信しない
- ・人物とセリフについて
 - セリフは要求である
 - 基本的な人間の欲求を忘れない
- ・リアリティは意外性
- など

◎丸尾聡の講座

- ・俳優はどのように戯曲を読むのか、俳優の視点から体験してみる
- ・テキストの読み合わせをする実習
など

◎坂手洋二の講座

- ・戯曲と演出家の関係について
- ・社会的な視点について
→「市民」と「消費者」
- ・ドキュメンタリー的な演劇の方法について
→『CVR チャーリー・ビクター・ロミオ』
→デヴィッド・ヘアー『パーマネント・ウェイ』
- ・演劇は自由である
- ・脚本家の笠原和夫の方法について
- ・ドキュメンタリー的な演劇をどうやって創るか
- ・一人芝居について
など

◎ケラリーノ・サンドロヴィッチの講座

- ・はじまり、そして、これまで
→どのような「笑い」がやりたかったか
→モンティ・パイソン
→ラジカル・ガジベリビンバ・システム
- ・自分の書き方
→演劇はストーリーがなくてもいい
→1、2年先に何がやりたいかはわからない
→気持ちの移り変わりに応じて作る
→書きたいことがない
→観客が喜ぶこと以外のこともやりたい
→相関図について
- ・自分の演出方法について
→役者の言葉の発し方にかなりこだわる
など

◎前川知大の講座

- ・演劇を始めたきっかけ
- ・自分の創作方法について
 - 自作『太陽』をテキストに
 - 伝えたいのか、それとも言いたいただけなのか
 - 情報の出し方とプロット
 - テーマを探る、それはいつ？
 - 譲れないところを自覚する
 - 戯曲の筋を通す
 - 完成形をイメージし、観客をイメージする
- など

◎川村毅の講座

- ・「ト書き」について
 - 戯曲と上演台本
 - 演出的な視点について
 - 作家によるト書きの文体
- ・ポストドラマ演劇について
- ・ポストドラマ演劇におけるト書き
- など

◎西山水木の講座

- ・役者はどう戯曲を読み、どう役に近づいていくか
- ・体感について
- ・戯曲のセリフの「、」について
- など

◎青木豪の講座

- ・劇作を始めたきっかけ
- ・『ガラスの動物園』の構造分析
- ・ロンドンと日本の比較
- ・取材について
- ・蜷川幸雄さん演出の『ガラスの仮面』の戯曲について
- ・書けなくなったときに助けになるもの
- など

◎渡辺えいの講座

- ・題材について
 - 震災のこと、東北の歴史、地域間の格差、など
 - 資料調べのこと
- ・これだけは書きたいというもの
 - 高校生のときに観た『ガラスの動物園』のこと
- ・劇作と演出の関係
- ・自分の劇団に書くときの例
- ・プロットについて
 - ピカソの『ゲルニカ』のこと
- など

◎松本修の講座

- ・私の創作法
 - 芝居をつくるときに戯曲は必要か？
- ・戯曲とどういう形で関わっていくか、どういう戯曲を書いて欲しいか
 - MODE公演『遠い煙』(作 水沼健)を例に
- ・カフカの小説『城』を舞台化してみる
- など

◎竹内統一郎の講座

- ・近代劇のセリフの構造について
- ・時間の流れについて
- ・セリフをしゃべらない登場人物について
- ・戯曲を書いていて煮詰まってきたらどうするか
- ・登場人物の差異、目的と欠損
- ・制限、制約を決めて書く
- など